

1・行連

- ・左と右に居る敵に挟まれ連行される想定
- ・機先を制し右の敵を一步やり過ごし、右肩手で抜き打ちに右敵の左肩口を、左袈裟に切下す
- ・左敵（一步位先に居る）が驚いて自分に振り向いたところ、右側より受流しに振りかむり、体を左に向け
- ・諸手上段となり真向から切り下ろす
- ・古い伝書は、右敵から切掛れたので、左足を左横に踏出し、その攻撃を避ける想定

2・連達

- ・状況は行連と同じ想定
- ・右足を少し右前に踏出し、刀を右方へ横一文字に抜き出し
- ・切っ先が鯉口を離れるや、やや前方に出ている敵の右脇腹辺りを突き刺し
- ・そのままの足踏みで旋回、180度向きを替え、一步前に出ている右敵が驚いて振り向く所を上段より真向から切下す
- ・伝書では、左の敵が攻撃せんとするので、体を右寄りに避けると想定

3・惣捲（五方切）

- ・一応5人の敵が前面に居る（敵は5人とは限らない。多数の敵を追撃する刀法）
- ・第1敵が正面から切り込んで来るのを右足を一步後に引きながら、敵の刀を左に受流し、返す刀で右足を踏み込み、敵の左横面を切り
- ・刀を返して左足を踏出し前進、第2の敵を右肩より袈裟に切り
- ・再び刀を返し右足を踏出し、第3の敵の左胴を切り
- ・更に左足を一步踏出し刀を水平に返し、第4敵の胴を右側より諸手で横一文字に切払って
- ・刀を上段にとり前進、真向から切下す

4・総留（放し打）

- ・狭い板橋・細道・階段等、両側に体を自由にかかせない障害のある場所を進行中
- ・第1敵に腰を充分捻って、右手片手打に敵の肩口から、胸部を切り下げ
- ・第2敵・第3敵にも同様片手打ち
- ・最後に、腰を右に捻り、正面に向き直り、横血揮い納刀
- ・足の運び2様あり
第1敵に、右足を（足先左向き）踏込み、腰を左に捻って半身となり（左爪先も左

向き) 右肩手打ちに切下す

次に左足を鷲足の如く右足の右横に (左足は爪先を左向きにしたまま)、腰を落として踏みつけながら、いったん納刀、右足を第1敵に対する如く右へ踏出すと同時に、片手打ちに第2敵に切りつける。これを数回繰り返す

- ・切り付けた時は何時も半身で敵に対し、自分は左向になっている

5・信夫 (夜の太刀)

- ・信夫は「忍」の当て字と考えられる
- ・暗夜の業、前方の敵が向かって進んでくる
- ・敵を前方にかすかに認め、体を左に転じ進んでくる敵の正面を避ける
- ・体を沈め、切っ先で軽く地をトントンと2～3回叩き音を立てる
- ・音に誘われそこに切り込んでくる敵に空を切らせ
- ・左斜め前に左足を踏出し、上段より敵を切下す

6・行違

- ・前方から二人前後して進んでくる敵あり
- ・二人の間に入りすれ違い様、やや遅れて来たてきの顔面(人中^{じんちゆう})に柄当て
- ・直ちに鞘を後に引きながら抜刀し、左回りに180度体を旋回し、先に進んでいた敵が振り向いたところを刃を上に向けたまま突く (真向から切る業もある)
- ・再び右回り (左回り) に180度旋回し (足踏みはそのまま)、柄当てした敵を上段より切下す

7・袖摺返し (賢のこと)

- ・群集の先に目指す敵が居る想定
- ・歩みながら左足を進め、静かに抜刀
- ・右足を一步進めると同時に、右拳を左肘の上に (刀は刃を上、後を突き刺すように)、左拳は右脇の下、左右の手を胸前で組み合わせる
- ・上体をやや後に反らし、反動をつけるように、上体を前へ突っ込み、右足を前に進めながら両手を八の字になるよう大きく開く
- ・このとき、左右の肘で人垣をかき分ける (刃を上に向け、群衆に無用の傷を負わさぬ様配慮)
- ・人垣の向こう側に体が出るや、刀を右側より受流しに振りかむり上段より目指す敵を切る

8・門入 (隠れ捨)

- ・門の内外に敵 (複数) 想定

- ・門の中に左足を踏み入れ（門に対し右向きの半身）、刃を外側にし刀を水平に胸前に抜き取り門内の敵を刺す
- ・そのままの足踏みで180度右廻りに旋回、門外後の敵を切り、
- ・再び、180度左廻りに旋回し、門内の敵切り倒す
- ・頭上に梁や鴨居の様な障害物が有る場所と心得て

9・壁添（人中^{じんちゆう}）

- ・左または右側に壁がある。或は両側に壁の如き障害物があり刀を自由に使えない場所
- ・歩みながら（立ち止まって）、右足に左足を揃えて爪先立ち、刀を左上方に抜き振りかむる（この場合限り、切っ先が背中に着くように深々とかむる）
- ・上段から大きく円を描くように地上近くまで切り下す（両足は爪先立ったまま）
- ・体近くに刀先を下げたまま血揮いを行い、上から納刀
- ・納め終わるとき両踵を下ろす
- ・自分の体の幅で刀を使う

10・受流（弛抜^{ゆるみぬき}）

- ・進行中、敵が真正面から切り込んでくる想定
- ・刀を右斜め横に抜くや、左足先を右に向け、右足の前に踏出し敵の刀を受ける
- ・右足を右斜めに運んで、その刀を受流し
- ・左足先を敵の方に向け、左手を柄に添え、右足を左足に揃えるように踏み込むと同時に、敵の肩口に切り付ける（首でもよい）

*11 本目・追いかけて斬り 省略（逃げる敵を背後から首・腕・胴へ抜き付け上段より切下）

*12 本目・両士引連 省略（左敵の腕・胴を斬る上意打ち）

13・暇乞（3通り）

- ・奥居合唯一の正坐の業
- ・上意打ちのひとつ（挨拶の際相手が刃向かうのを察知、挨拶の途中抜き打ち）

1・頭を黙礼程度の会釈。間を置かずうつむいたまま一気に抜刀。上段より切り下す

2・両手を着き頭を低く下げ、抜刀。敵が頭を下げた所を切る

3・両手を着き深々と礼。体を起こしながら抜刀。敵が頭を上げる所を切る